



豊玉二中だより

令和2年度 第2号
発行日 5月12日(火)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

豊玉二中のアイデンティティー

副校長 木原 賢三

新緑の清々しい季節となりました。いつもの年であれば、1学期がスタートして約1ヶ月が過ぎ、新入生をはじめ全校生徒が活気あふれる学校生活をおくっているところです。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、練馬区において5月31日まで臨時休校の措置が行われ、生徒も保護者の方も不安な毎日を過ごされていたかと思います。学校においても、少しでも生徒、保護者の方の心配や不安をなくすことができるよう今後とも学校だよりや学校ホームページを通して、情報発信に努めてまいりたいと考えています。

さて、東京都では新型コロナウイルスの感染拡大で4月に緊急事態宣言が発令され、「不要不急」の外出自粛要請が行われました。このような中、サッカー選手の三浦知良選手が自身のホームページで「僕らは自分たちの力をもう少し信じていい」とメッセージを発信し、連帯して現状を乗り切ろうと訴えたというニュースがありました。サッカーJリーグで現役最年長の三浦選手は、自身が所属するJ1の横浜FCが活動休止となる中、プロスポーツ選手としての社会的な責任とプレッシャーと隣り合わせの生活を送っていると自分自身の心境をつづっています。そのうえで、「世界でも有数の生真面目さ、規律の高さ。それをサッカーの代表でも日常のピッチでもみてきた。僕らは自分たちの力をもう少し信じていい。日本人はこういうとき、『やれるんだ』」とメッセージを発信しました。

そして、「『都市封鎖をしなくたって、被害を小さく食い止められた。やはり、日本人は素晴らしい』そう記憶されるように。力を発揮するなら今、そうとらえて僕はできることをする。ロックダウンでなく『セルフ・ロックダウン』でいくよ。僕たちのモラル、秩序と連帯、日本のアイデンティティーで乗り切ってみせる。そんな見本を示せたらいいね」と連帯して現状を乗り切ろうと訴えます。

新型コロナウイルスの感染拡大で、これまでの日常が奪われ、多くの人が不安になり、落ち着かない気持ちになっています。また、自粛要請が続く中、生徒のストレスも大きくなっていることが心配されます。しかし、このような現状だからこそ、豊玉二中の生徒の力を信じ、今自分ができるところに力を尽くしていくことが大切です。本校において、人の気持ちを理解し、思いやりをもった人、様々な知識を身に付け活用する力を身に付ける人になってほしいと教育活動を行っています。令和3年度から実施される新学習指導要領では、変化の激しい時代を迎えるにあたり、知・徳・体にわたる「生きる力」を育むために「何のために学ぶのか」という学ぶ意義を共有させ、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けさせ、生涯にわたりすすんで学び続けることができるようにすることが目指されています。今まさに困難に直面した時、それを乗り越えるために、どのような行動をとることが良いのかを考え、仲間と協力しあい、未来に向かって力強く羽ばたいてほしいと願っています。

まだまだ新型コロナウイルス感染の拡大は予断を許さない状況です。豊玉二中生としてモラルをもった生活を行い、豊玉第二中のアイデンティティーをもち、この厳しい状況を乗り切ることができる力を身に付けさせて

いきたいと考えています。今後とも保護者の皆さまのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。